

為替相場展望

2012年3月



調査部 マクロ経済研究センター

<http://www.jri.co.jp/report/medium/publication/>

【目 次】

為替相場概説	1
相場回顧	2
為替関連指標の動向	3 ～ 6
トピックス	7
見通し	8
資料	

◆本資料は2012年 3 月 5 日9:00時点で利用可能な情報をもとに作成しています。

◆本資料に関するご照会は、下記あてお願いいたします。

欧米経済・市場動向グループ

井上 肇 (Tel : 03-6833-0920 Mail : inoue.hajime@jri.co.jp)

為替相場概説（2012年3月）

1. 相場回顧

<2月のドル円相場>

月初に76円割れ目前まで円高ドル安が進行したものの、その後は、①良好な景気指標を受けた米国景気の回復期待の高まり、②日銀による予想外の追加金融緩和、③本邦貿易収支の赤字化と経常黒字の縮小、等を背景に、27日にかけて81円台後半まで円安ドル高が進行。

<2月のユーロ円相場>

日銀による予想外の追加金融緩和に加え、ギリシャの財政緊縮法案可決、ユーロ圏による第2次ギリシャ支援合意等を通じて、欧州債務問題に対する過度な懸念が薄らいだことから、中旬以降大幅な円安ユーロ高が加速し、27日には109円台までユーロ高が進行。

2. 為替関連指標の動向

<日米独金利差と日米欧の金融政策>

2月、米、独の2年債利回りが小幅上昇する一方、わが国の2年債利回りは小幅低下。この結果、内外金利差が小幅拡大し、対ドル、対ユーロでの円安進行をサポート。もっとも、足許では、金利差の拡大に見合う水準以上に円安が進行。先行きを展望すると、米2年債利回りは緩やかな上昇にとどまる見込みであるほか、独2年債利回りは底這い圏内での推移が長期化する見込み。このため、当面、内外金利差の大幅拡大は見込み難く、対ドル、対ユーロでの本格的な円安進行は期待薄。

<日米欧の貿易収支と生産・景況感格差>

1月の本邦貿易収支は、単月としては過去最大の赤字を記録。先行き貿易収支の黒字基調回復にはなお時間がかかり、実需面からは円高圧力が緩和される見込み。もっとも、経常黒字が維持されるもと、大幅な円安も期待薄。

1月のわが国、米国の鉱工業生産が増加する一方、12月のユーロ圏の鉱工業生産は減少するなど、ユーロ圏の景況感は日米に劣位。当面を展望しても、日米では緩やかな景気回復が見込まれるのに対し、ユーロ圏ではマイナス成長が見込まれ、日米とユーロ圏の間の景況感格差が対ドル、対円でのユーロ安圧力として作用する見込み。

<日本の対内対外証券投資動向>

本邦証券投資の1月以降の動向をみると、海外投資家による対内証券投資は、買い越し額が減少する一方、国内投資家による対外証券投資は、中長期債への投資を中心に買い越し額が増加。この結果、ネットでみた証券投資フローは、日本からの資金流出基調となっており、円安に振れやすい状況。もっとも、先行きを展望すれば、欧州債務問題の先行きが依然不透明であること等から、こうした傾向が続くかどうかは不透明。

<米国の証券投資・IMM通貨先物>

2011年の証券投資を通じた米国への資金流入は、同期間の貿易赤字をファイナンスできていない状況。当面を展望しても、米国への資金流入が増加することは想定しづらく、米国の資金フロー面からはドル安圧力が持続する公算が大。

IMM通貨先物取引（非商業部門）の円ポジションは、買い持ちが2月28日時点で昨年5月以来の売り持ち超に。円買い持ち解消の動きが一服するなか、先行きは円買いにも円売りにも振れやすい情勢。一方、ユーロポジションは2月28日時点で依然として高水準。投機筋のユーロ売り余力は限定的になっているとみられ、短期的には引き続きユーロ買い戻しの動きが生じやすい状況。

3. トピックス

<原油高のドル円相場への影響>

足許、原油価格が上昇傾向。足許の原油価格とドル円相場の関係をみると、正の相関関係が看取。この背景を推察してみると、わが国貿易収支の赤字化が円安材料となるなか、原油価格の上昇が貿易収支の赤字幅を拡大させるとの思惑につながり、円安要因として作用している可能性を指摘可能。もっとも、原油価格の上昇はドル安要因にもなりうるもの。米国では、昨夏にかけて原油価格上昇に伴うガソリン高が個人消費を下押し。足許、米国景気の回復期待の高まりがドル高材料となっているものの、今後、原油価格の上昇により米国景気の減速懸念が強まれば、原油価格上昇がドル安要因として作用する可能性。以上のことから、仮に原油価格の上昇が続いても、一方的な円安ドル高が進行する公算は小。

4. 見通し

<ドル円相場の見通し>

①本邦貿易収支の赤字化をはじめとした円に対する需給の変化、②米国景気の回復期待の高まり、③本邦通貨当局の円高回避に向けた強い姿勢、等を背景にドルが底堅く推移する見込み。もっとも、米FRBが超低金利政策の長期化を表明するなか、大幅な円安ドル高は期待薄。この結果、80円前後を中心とした円高値圏での推移が長期化する見通し。

<ユーロ円相場の見通し>

ユーロ圏による第2次ギリシャ支援合意やECBによる長期資金供給等を受けて債務問題に対する懸念が薄らぐなか、短期的にはユーロが底堅く推移する見通し。もっとも、今後も債務問題が蒸し返される展開が予想されるほか、ユーロ圏景気の悪化やECBによる低金利政策の長期化が見込まれることから、早晚ユーロ安基調に復帰する見通し。

相場回顧

対ドル、対ユーロでほぼ一本調子の円安が進行し、対ドルで81円台、対ユーロで一時109円台まで円安が進行。

＜2月のドル円相場＞

月初、前月の米FOMCでのFRBによる超低金利政策長期化示唆を受けて76円割れ目前まで円高ドル安が進行したものの、3日の良好な米雇用統計を契機に円高ドル安が一服。その後は、①昨年の本邦経常黒字の大幅縮小、②14日の日銀による予想外の追加金融緩和、③単月では過去最大となる1月の本邦貿易赤字、など、円安材料が相次ぎ、円安が加速。さらに、第2次ギリシャ支援合意を受けたリスク回避姿勢の後退、良好な住宅関連指標等を受けた米国景気の回復期待も加わり、27日には81円台後半まで円安ドル高が進行。もっとも、その後は、一本調子での円安ドル高進行に対する警戒感が強まり、81円前後でのみ合い。

＜2月のユーロ円相場＞

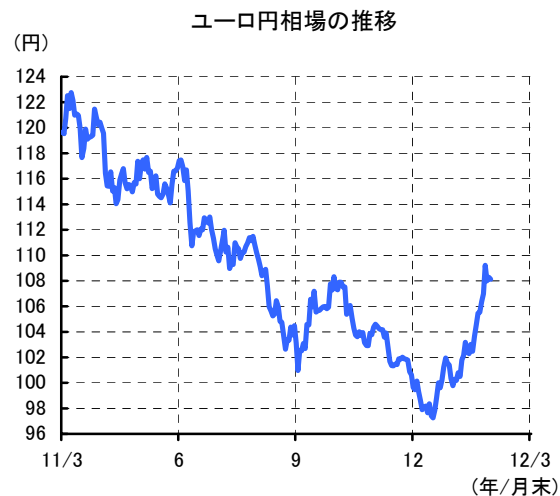
月初、ギリシャの債務減免交渉が難航するなか、99円台半ばまでユーロ安が進行したものの、ギリシャでの財政緊縮法案可決への期待が強まるにつれてユーロが上昇。13日の米格付け会社によるイタリア等欧州6カ国の格下げ発表を嫌気して、一旦ユーロが弱含む局面はあったものの、14日の日銀による予想外の追加金融緩和に加え、23日のユーロ圏による第2次ギリシャ支援合意等を通じて、欧州債務問題に対する過度な懸念が薄らいだことから、27日にかけて109円台後半まで円安ユーロ高が加速。もっとも、その後は、急速な円安ユーロ高進行に対する警戒感が強まり、月末にかけてユーロが108円台前半まで弱含み。



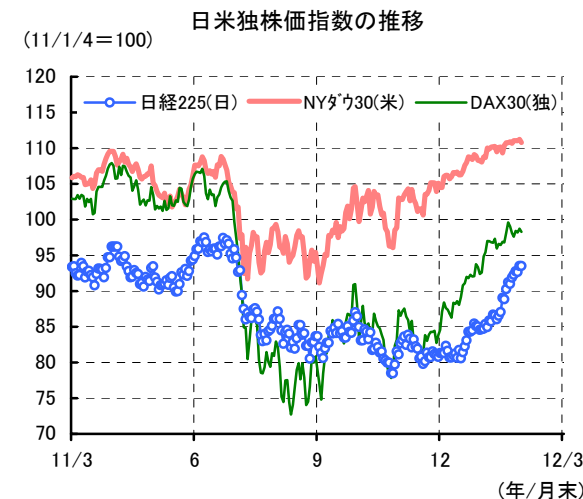
(資料)Bloomberg L.P.



(資料)Bloomberg L.P.



(資料)Bloomberg L.P.



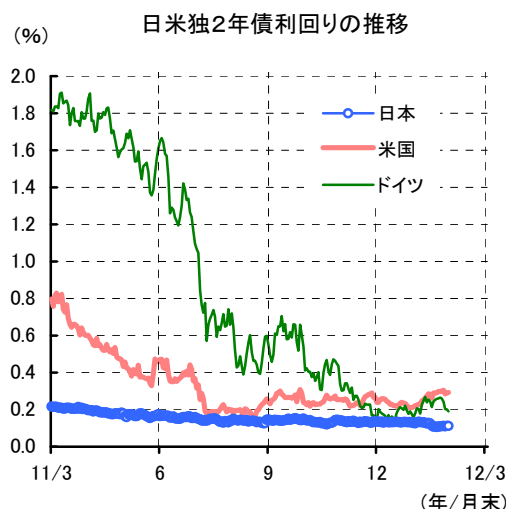
(資料)Bloomberg L.P.

(株)日本総合研究所 為替相場展望 2012年3月

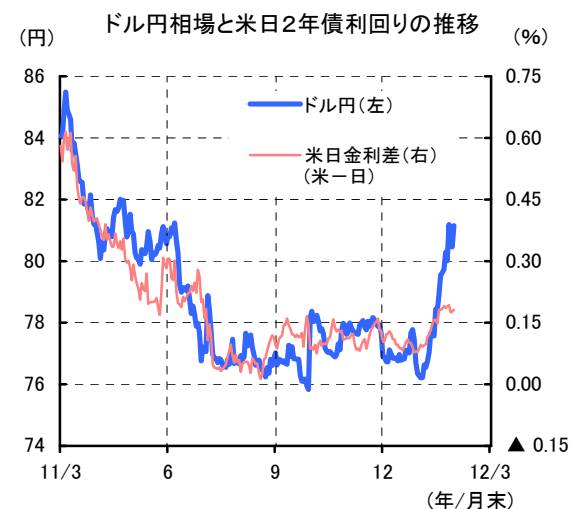
内外金利差の小幅拡大が円安進行をサポート。もっとも、足許では、内外金利差に見合う水準以上に円安が進行。

2月の米2年債利回りは、良好な米景気指標を受けた米国景気の回復期待の強まりとそれに伴う追加緩和観測の後退等を背景に小幅上昇。独2年債利回りは、ユーロ圏による第2次ギリシャ支援合意等を受けて債務問題に対する懸念が薄らぐなか、小幅上昇。一方、わが国の2年債利回りは、日銀による予想外の追加金融緩和等を背景に小幅低下。この結果、内外金利差が小幅拡大し、対ドル、対ユーロでの円安進行をサポート。もっとも、足許では、金利差の拡大に見合う水準以上に円安が進行。ちなみに、過去1年間の金利差と為替相場の相関を基に試算すると、金利差に見合う円相場的水準は、対ドル、対ユーロでそれぞれ、79円、103円程度。

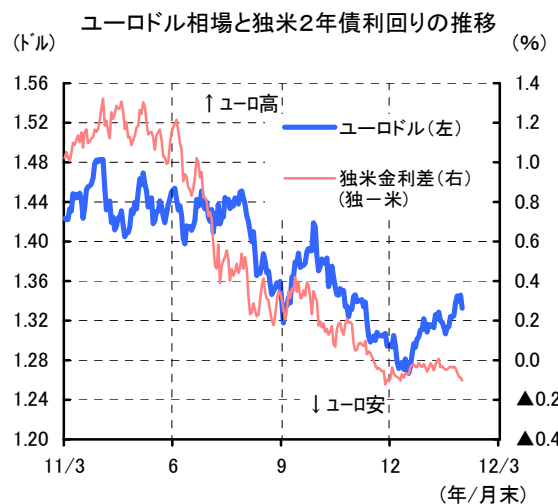
先行きを展望すると、米2年債利回りは、米国景気の回復期待の高まり等が金利押し上げに作用する一方、米F R Bによる超低金利政策の長期化等が金利上昇を抑制し、緩やかな上昇にとどまる見込み。独2年債利回りは、債務問題に対する懸念後退が金利押し上げに作用する一方、①緊縮財政等によるユーロ圏景気の悪化、②債務問題への懸念が完全に払拭されないなかでの根強い周辺国からの逃避資金流入、③E C Bによる低金利政策の長期化、等が金利下押しに作用し、底這い圏内での推移が長期化する見込み。わが国でも、円高を通じた景気下振れ懸念が高まれば、日銀は追加緩和を辞さない構えながら、2年債利回りの低下余地は限定的。このため、当面、内外金利差の大幅拡大は見込み難しく、対ドル、対ユーロでの本格的な円安進行は期待薄。



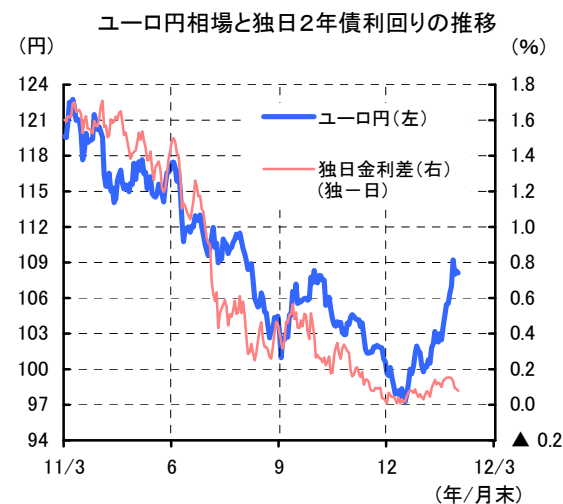
(資料)Bloomberg L.P.



(資料)Bloomberg L.P.



(資料)Bloomberg L.P.



(資料)Bloomberg L.P.

貿易収支の黒字基調回復にはなお時間。実需面からは円高圧力が緩和される見込み。景況感格差はユーロ圏劣位。対ドル、対円でユーロ安に作用する見込み。

＜日米欧の貿易収支＞

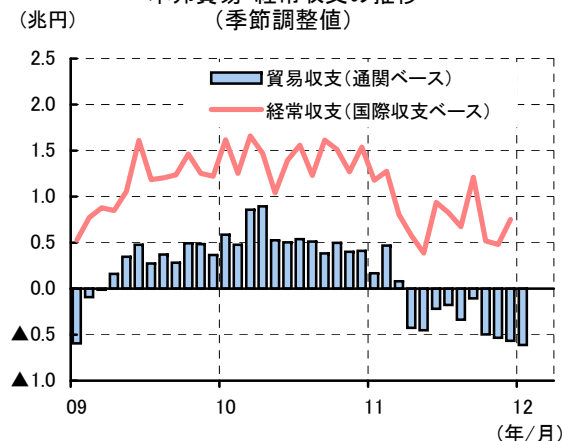
1月の本邦貿易収支（原数値）は、単月としては過去最大となる▲1兆4,750億円の赤字を記録。中華圏の春節休暇という季節要因が赤字拡大に作用したものの、海外景気の減速や円高による輸出の減少、化石燃料の調達拡大や資源価格の上昇による輸入増加が続いていることが主因。当面を展望しても、海外景気の回復の遅れにより輸出の低迷が長引く一方、資源価格の上昇などを受けて輸入は上振れしやすい状況が続く見通し。この結果、貿易収支の黒字基調回復にはなお時間がかかり、実需面からは円高圧力が緩和される見込み。もっとも、経常黒字が維持されるもと、大幅な円安も期待薄。

12月の米貿易赤字は、▲488億ドルと6ヵ月振りの高水準。この結果、2011年の貿易赤字は▲5,580億ドルと2008年以降で最大となり、実需面からはドル安圧力に。12月のユーロ圏の貿易収支は、73億ユーロの黒字。この結果、2011年の貿易収支は41億ユーロの黒字となり、実需面からはユーロをサポート。

＜日米欧の生産・景況感格差＞

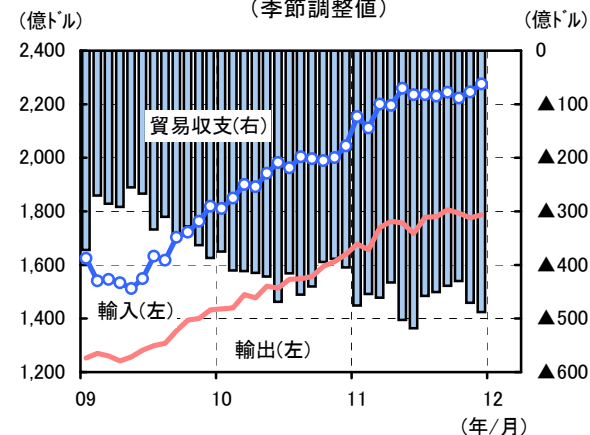
1月のわが国、米国の鉱工業生産がそれぞれ前月比+2.0%、+1.0%と増加する一方、12月のユーロ圏の鉱工業生産は同▲1.1%と減少するなど、ユーロ圏の景況感は日米に劣位。当面を展望しても、日米では緩やかな景気回復が見込まれるのに対し、ユーロ圏では2012年のマイナス成長が見込まれており、日米とユーロ圏の間の景況感格差が対ドル、対円でユーロ安圧力として作用する見込み。

本邦貿易・経常収支の推移
(季節調整値)



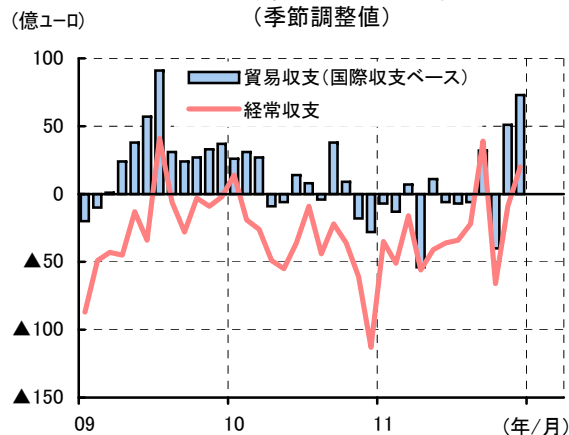
(資料)財務省

米国の財・サービス収支の推移
(季節調整値)



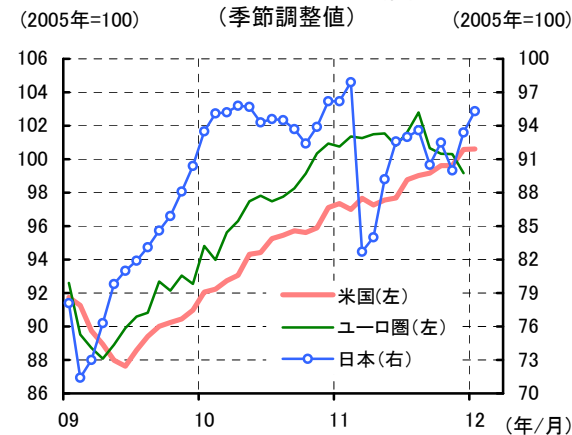
(資料)米商務省

ユーロ圏貿易・経常収支の推移
(季節調整値)



(資料)ECB

日米欧の鉱工業生産の推移
(季節調整値)



(資料)経済産業省、米FRB、Eurostat
(注)ユーロ圏は除く建設。

(株)日本総合研究所 為替相場展望 2012年3月

本邦証券投資は、足許、対内低調・対外堅調となり、円安に振れやすい状況。もっとも、先行きもこうした傾向が続くかどうかは不透明。

＜月次対内対外証券投資(12月迄)＞

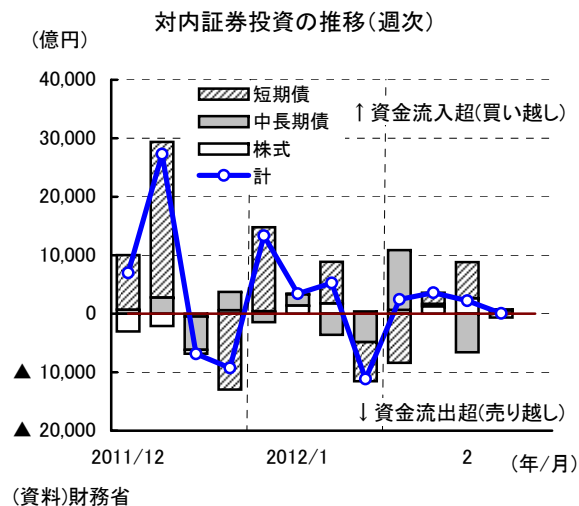
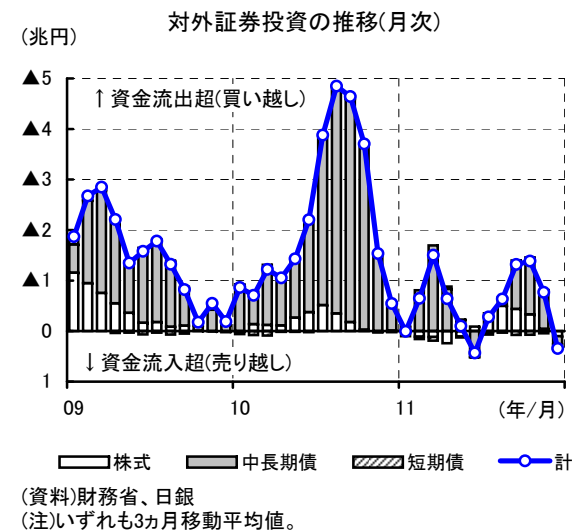
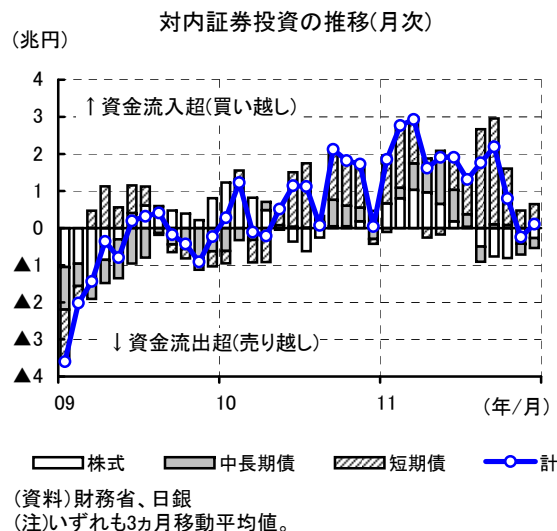
2011年の本邦証券投資は、12兆9,048億円の資金流入超に。内訳をみると、短期債投資を通じた日本への資金流入が中心となっており、欧州債務危機への懸念等を背景に、一時的な資金逃避先としてわが国短期債が消去法的に選ばれたことを示唆。

＜週次対内対外証券投資(1月以降)＞

本年1月以降の動向をみると、海外投資家による対内証券投資は、買い越し額が減少。海外投資家のリスク回避姿勢の緩和により、資金逃避の動きが一服していることが背景。一方、国内投資家による対外証券投資は、中長期債への投資を中心に買い越し額が増加。背景としては、①国内投資家のリスク許容度が改善したこと、②低金利ながら、債券を保有し続けることで残存期間が短くなり、価格が上昇するという

「ロールダウン効果」を勘案すれば、外債投資にも投資妙味があると国内投資家が判断している可能性、を指摘可能。この結果、ネットでみた証券投資フローは、日本からの資金流出基調となっており、円安に振れやすい状況。

もっとも、先行きを展望すれば、①欧州債務問題の先行きが依然不透明であるなか、投資家のリスク回避の動きが再び強まる可能性があること、②米F R Bが超低金利政策の長期化を表明するなか、内外金利差の大幅拡大が期待薄であること、等から、こうした傾向が続くかどうかは不透明。



米国の証券投資を通じた資金流入は貿易赤字をファイナンスできておらず。投機筋の動向をみると、引き続きユーロの買い戻しの動きが生じやすい状況。

＜米国の対内対外証券投資動向＞

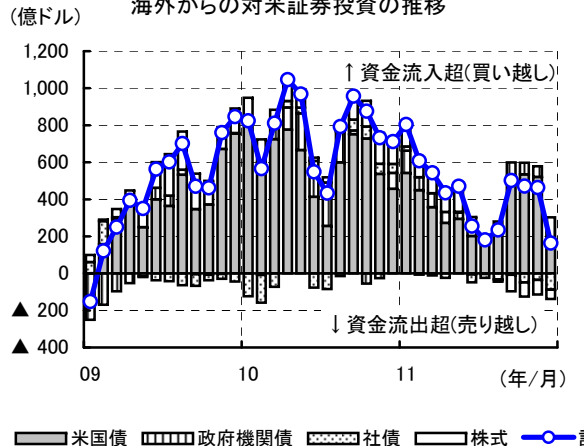
米国の証券投資の昨年12月までの動向をみると、海外からの対米証券投資が底堅く推移する一方、米国からの対外証券投資は減少傾向。世界経済の減速や欧州債務問題への懸念から、海外投資家による米国債への資金逃避が活発化する一方、米国投資家による対外投資姿勢が慎重化したことが背景。もっとも、2011年の証券投資を通じた米国への資金流入は、3153億ドルにとどまり、同期間の米貿易赤字▲5580億ドルをファイナンスできていない状況。当面を展望しても、米F R Bが超低金利政策の長期化を表明するなか、米国への資金流入が増加することは想定しづらく、米国の資金フロー面からはドル安圧力が持続する公算が大。

＜IMM通貨先物ポジション＞

IMM通貨先物取引（非商業部門）の円ポジションは、買い持ちが2月28日時点で4週連続で縮小し、昨年5月以来の売り持ち超に。円買い持ち解消の動きが一服するなか、先行きは円買いにも円売りにも振れやすい情勢。

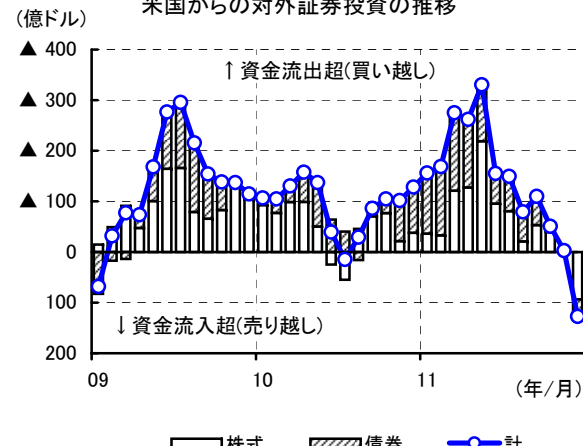
ユーロポジションは2月28日時点で売り持ちが2週連続で縮小したものの、依然として高水準。欧州債務危機への懸念が完全には払拭されないなか、投機筋はユーロ売りスタンスを崩していない可能性を示唆。もっとも、投機筋のユーロ売り余力は限定的になっているとみられ、短期的には引き続きユーロ買い戻しの動きが生じやすい状況。

海外からの対米証券投資の推移



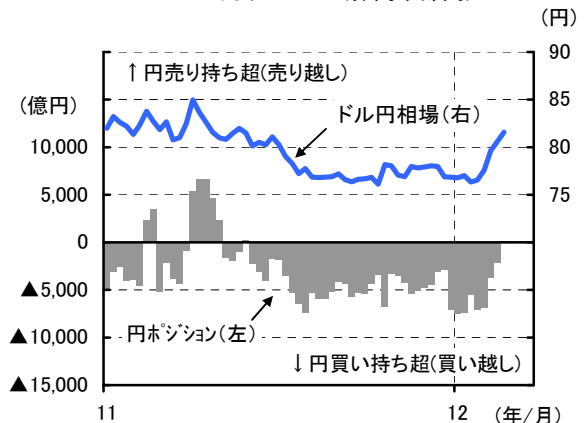
(資料)米財務省
(注)いずれも3ヵ月移動平均値。

米国からの対外証券投資の推移



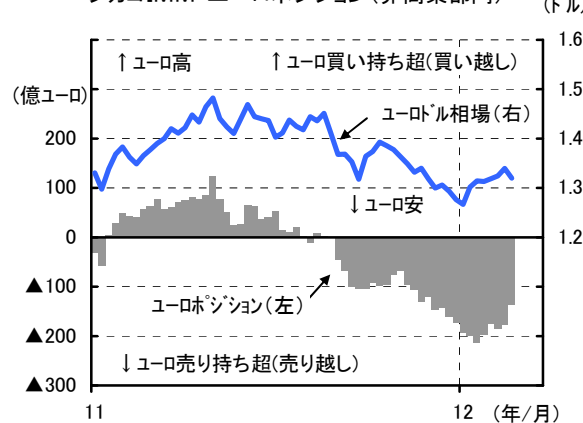
(資料)米財務省
(注)いずれも3ヵ月移動平均値。

シカゴIMM・円ポジション(非商業部門)



(注)直近値は2/28。
(資料)米CFTC

シカゴIMM・ユーロポジション(非商業部門)



(注)直近値は2/28。
(資料)米CFTC

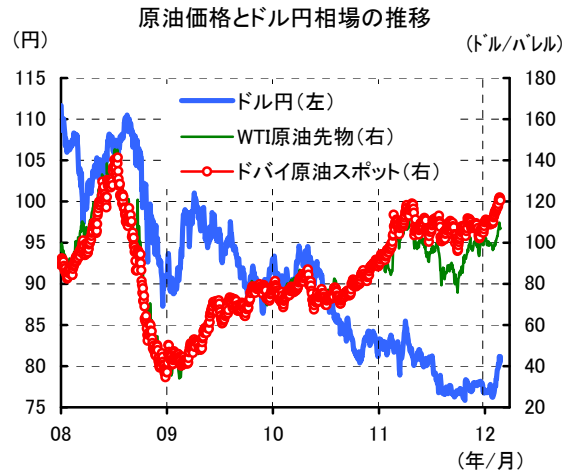
足許、原油価格とドル円相場は正の相関関係を看取。もっとも、原油価格上昇は円安要因にもドル安要因にもなり、一方的な円安ドル高進行の公算は小。

イラン情勢の緊迫化に加え、世界的な金融緩和に伴う潤沢な流動性を背景に、原油価格が上昇傾向にあるなか、原油価格上昇がドル円相場にどのような影響を与えるかが注目。そこで、原油価格とドル円相場の関係をみると、長期では相関関係があるとはみなしがたいものの、足許に限れば、正の相関関係が看取。

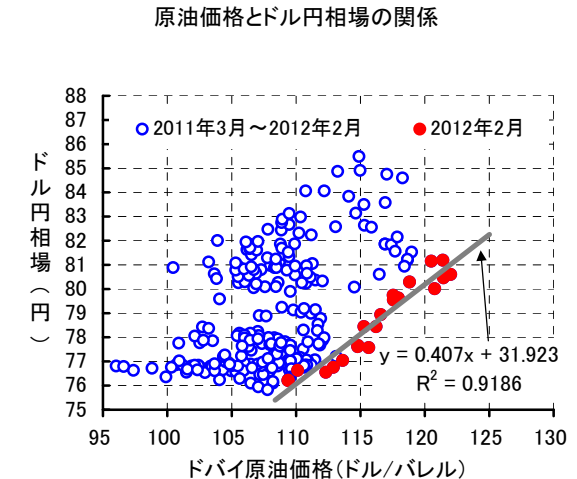
この背景を推察してみると、足許、わが国貿易収支の赤字化が円安材料となるなか、原油価格の上昇が原油輸入価格の上昇を通じて貿易収支の赤字幅を拡大させるとの思惑につながり、円安要因として作用している可能性を指摘可能。

もっとも、原油価格の上昇はドル安要因にもなりうるもの。米国では、昨年夏にかけて原油価格上昇に伴うガソリン高が個人消費を下押し。足許、米国景気の回復期待の高まりがドル高材料となっているものの、今後、原油価格の上昇により米国景気の減速懸念が強まれば、原油価格上昇がドル安要因として作用する可能性。

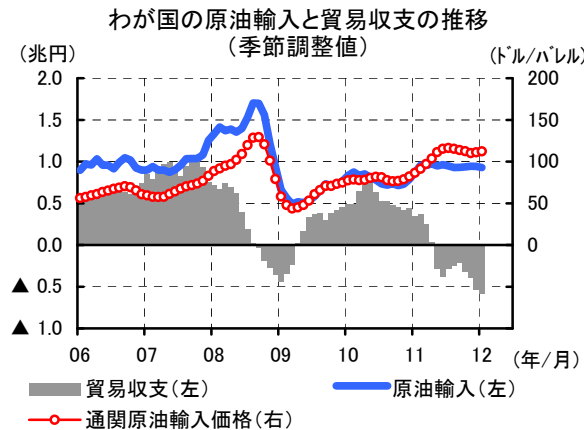
以上のことから、原油価格の上昇は、円安材料になるとともに、ドル安材料ともなりうるため、仮に原油価格の上昇が続いても、一方的な円安ドル高が進行する公算は小。



(資料)Bloomberg L.P.

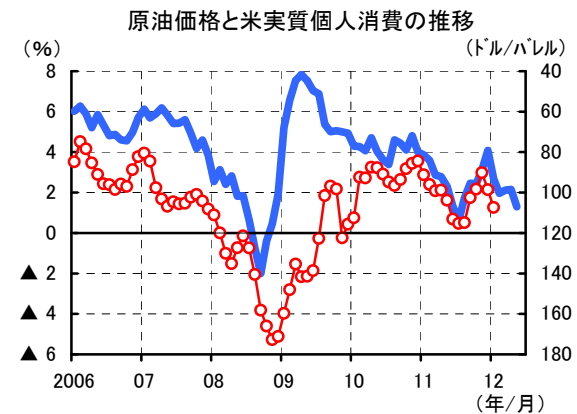


(資料)Bloomberg L.P.



(資料)財務省

(注)原油輸入の季節調整値は輸入の季調計数で計算。
いずれも3ヵ月移動平均値。



(資料)Bloomberg L.P.、米商務省

(株)日本総合研究所 為替相場展望 2012年3月

見通し

ドル円は、80円前後を中心とした円高値圏での推移が長期化する見通し。ユーロ円は、短期的にはユーロが底堅く推移するものの、早晚ユーロ安基調に復帰する見通し。

＜ドル円相場の見通し＞

①わが国貿易収支の赤字化をはじめとした円に対する需給の変化、②良好な米景気指標を受けた米国の景気回復期待の高まりとそれに伴う米F R Bによる追加緩和観測の後退、③わが国通貨当局による円高回避に向けた強い姿勢、等を背景にドルが底堅くする見込み。もっとも、米F R Bが米国景気の下振れ回避に向け、超低金利政策の長期化を表明するなか、大幅な円安ドル高進行は期待薄。この結果、80円前後を中心とした円高値圏での推移が長期化する見通し。

＜ユーロ円相場の見通し＞

ユーロ圏による第2次ギリシャ支援合意やE C Bによる長期資金供給等を受けて債務問題に対する懸念が薄らぐなか、短期的にはユーロが底堅く推移する見通し。もっとも、①欧州債務問題を巡る課題が依然として山積しているほか、抜本的な解決には長い時間を要するとみられ、今後も債務問題が蒸し返される展開が予想されること、②緊縮財政や銀行貸出厳格化などにより、2012年のユーロ圏景気はマイナス成長が見込まれること、③E C Bによる低金利政策の長期化が予想されること、等から、早晚ユーロ安基調に復帰する見通し。

ドル円相場見通し

(円)

	2011年	2012年			
	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12
期中平均	77.35	79.0	79.5	80.0	80.5
(高値)	79.54	83	83	84	84
レンジ	¥	¥	¥	¥	¥
(安値)	75.35	76	76	77	77

予測

ユーロ円相場見通し

(円)

	2011年	2012年			
	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12
期中平均	104.2	105	104	103	102
(高値)	111.6	111	110	109	108
レンジ	¥	¥	¥	¥	¥
(安値)	99.41	99	98	97	96

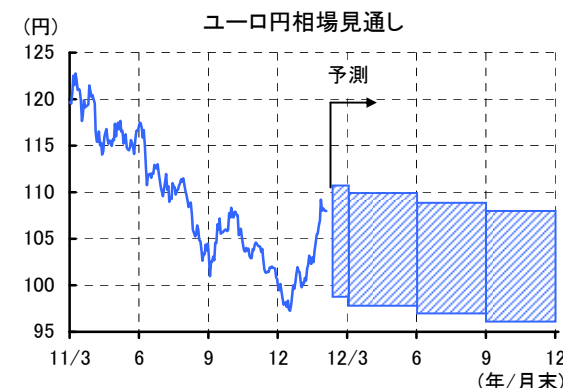
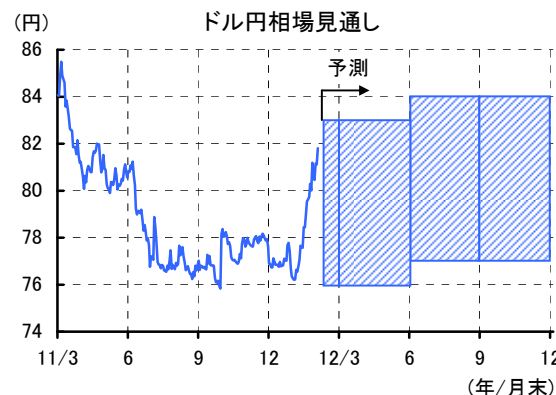
予測

ユーロドル相場見通し

(ドル)

期中平均	1.35	1.33	1.31	1.29	1.27
(高値)	1.42	1.40	1.38	1.36	1.34
レンジ	¥	¥	¥	¥	¥
(安値)	1.29	1.26	1.24	1.22	1.20

予測



(株)日本総合研究所 為替相場展望 2012年3月

内外市場データ（月中平均）

	短期金利		ユーロ円(TIBOR)		円・円スワップ			国債 10年物 (%)	プライムレート		為替相場		日経平均 株価 (円)	米国市場				欧州市場	
	公定歩合 (%)	無担O/N (%)	3ヵ月 (%)	6ヵ月 (%)	2年 (%)	5年 (%)	10年 (%)		短期 (%)	長期 (%)	¥/\$	¥/Eur		F F O/N	ユーロ3ヵ月	10年国債	N Y ダウ 工業株	ユーロ3ヵ月	10年国債
09/1	0.30	0.120	0.73	0.78	0.75	0.94	1.26	1.25	1.475	2.25	90.41	119.68	8331.49	0.15	1.73	2.47	8396.20	2.45	3.09
09/2	0.30	0.111	0.71	0.77	0.72	0.89	1.19	1.29	1.475	2.25	92.50	118.33	7694.78	0.22	1.65	2.85	7749.01	1.96	3.17
09/3	0.30	0.100	0.68	0.75	0.74	0.91	1.25	1.30	1.475	2.25	97.87	127.44	7764.58	0.18	1.62	2.80	7235.47	1.63	3.06
09/4	0.30	0.104	0.62	0.72	0.75	0.99	1.39	1.44	1.475	2.30	99.00	130.50	8767.96	0.15	1.49	2.90	7992.12	1.42	3.19
09/5	0.30	0.102	0.58	0.70	0.69	0.94	1.36	1.44	1.475	2.10	96.30	131.92	9304.43	0.17	1.23	3.30	8398.37	1.28	3.42
09/6	0.30	0.104	0.56	0.68	0.68	0.92	1.41	1.47	1.475	2.10	96.52	135.46	9810.31	0.21	1.07	3.70	8593.00	1.23	3.55
09/7	0.30	0.102	0.56	0.67	0.62	0.86	1.37	1.34	1.475	1.90	94.50	133.00	9691.12	0.16	0.91	3.53	8679.75	0.95	3.36
09/8	0.30	0.106	0.55	0.66	0.60	0.88	1.46	1.37	1.475	1.95	94.84	135.40	10430.35	0.16	0.69	3.57	9375.06	0.83	3.33
09/9	0.30	0.102	0.53	0.65	0.56	0.83	1.41	1.31	1.475	1.80	91.49	132.80	10302.87	0.15	0.53	3.39	9634.97	0.73	3.29
09/10	0.30	0.106	0.53	0.64	0.58	0.86	1.47	1.33	1.475	1.70	90.29	133.87	10066.24	0.12	0.49	3.36	9857.34	0.69	3.23
09/11	0.30	0.105	0.52	0.63	0.56	0.83	1.48	1.35	1.475	1.85	89.19	132.98	9640.99	0.12	0.25	3.38	10227.55	0.67	3.28
09/12	0.30	0.101	0.47	0.59	0.48	0.71	1.39	1.26	1.475	1.65	89.55	130.95	10169.01	0.12	0.25	3.59	10433.44	0.67	3.23
10/1	0.30	0.096	0.45	0.57	0.48	0.72	1.42	1.33	1.475	1.65	91.16	130.30	10661.62	0.12	0.24	3.71	10471.24	0.63	3.29
10/2	0.30	0.101	0.44	0.56	0.47	0.72	1.41	1.33	1.475	1.65	90.28	123.58	10175.13	0.13	0.23	3.68	10214.51	0.60	3.19
10/3	0.30	0.097	0.44	0.55	0.46	0.71	1.40	1.34	1.475	1.60	90.52	122.96	10671.49	0.16	0.23	3.71	10677.52	0.59	3.13
10/4	0.30	0.093	0.41	0.52	0.47	0.72	1.40	1.35	1.475	1.65	93.38	125.57	11139.77	0.20	0.25	3.82	11052.15	0.59	3.09
10/5	0.30	0.091	0.39	0.50	0.48	0.69	1.34	1.27	1.475	1.60	91.74	114.68	10103.98	0.20	0.36	3.40	10500.19	0.63	2.80
10/6	0.30	0.095	0.39	0.50	0.47	0.65	1.27	1.20	1.475	1.45	90.92	110.99	9786.05	0.18	0.45	3.19	10159.25	0.66	2.63
10/7	0.30	0.094	0.37	0.49	0.45	0.59	1.16	1.09	1.475	1.45	87.72	111.81	9456.84	0.18	0.43	2.98	10222.24	0.79	2.65
10/8	0.30	0.095	0.37	0.49	0.43	0.54	1.04	0.98	1.475	1.45	85.47	110.36	9268.24	0.19	0.35	2.68	10350.40	0.83	2.37
10/9	0.30	0.090	0.36	0.47	0.41	0.55	1.13	1.06	1.475	1.45	84.38	109.94	9346.72	0.20	0.31	2.64	10598.07	0.83	2.34
10/10	0.30	0.091	0.34	0.45	0.38	0.47	0.97	0.89	1.475	1.30	81.87	113.65	9455.09	0.19	0.29	2.51	11044.49	0.94	2.37
10/11	0.30	0.091	0.34	0.45	0.40	0.55	1.12	1.05	1.475	1.40	82.48	112.64	9797.18	0.20	0.29	2.75	11198.31	0.98	2.56
10/12	0.30	0.087	0.34	0.45	0.41	0.64	1.27	1.19	1.475	1.60	83.41	110.28	10254.46	0.18	0.29	3.28	11465.26	0.95	2.96
11/1	0.30	0.085	0.34	0.45	0.41	0.64	1.27	1.21	1.475	1.50	82.63	110.53	10449.53	0.17	0.29	3.36	11802.37	0.95	3.05
11/2	0.30	0.093	0.34	0.45	0.43	0.71	1.34	1.28	1.475	1.65	82.53	112.70	10622.27	0.16	0.31	3.56	12190.00	1.04	3.23
11/3	0.30	0.085	0.34	0.45	0.40	0.64	1.29	1.25	1.475	1.60	81.79	114.48	9852.45	0.14	0.31	3.40	12081.48	1.13	3.25
11/4	0.30	0.062	0.33	0.44	0.39	0.65	1.32	1.27	1.475	1.70	83.35	120.34	9644.63	0.10	0.27	3.43	12434.88	1.27	3.35
11/5	0.30	0.069	0.33	0.44	0.37	0.56	1.19	1.14	1.475	1.55	81.23	116.03	9650.78	0.09	0.26	3.15	12579.99	1.38	3.11
11/6	0.30	0.069	0.33	0.44	0.37	0.54	1.15	1.13	1.475	1.50	80.51	115.82	9541.53	0.09	0.24	2.99	12097.31	1.43	2.97
11/7	0.30	0.073	0.33	0.44	0.37	0.53	1.13	1.11	1.475	1.50	79.47	113.52	9996.68	0.07	0.22	2.98	12515.68	1.54	2.78
11/8	0.30	0.081	0.33	0.44	0.33	0.46	1.03	1.02	1.475	1.35	77.22	110.62	9072.94	0.10	0.26	2.29	11326.62	1.50	2.25
11/9	0.30	0.080	0.33	0.43	0.34	0.46	1.00	1.00	1.475	1.40	76.84	105.89	8695.42	0.08	0.31	1.96	11175.45	1.48	1.87
11/10	0.30	0.081	0.33	0.43	0.35	0.47	1.01	1.01	1.475	1.40	76.77	105.24	8733.56	0.07	0.36	2.13	11515.93	1.51	2.04
11/11	0.30	0.073	0.31	0.41	0.35	0.45	0.95	0.94	1.475	1.40	77.54	105.05	8506.11	0.08	0.36	2.00	11804.33	1.43	1.95
11/12	0.30	0.078	0.33	0.43	0.38	0.49	1.00	1.00	1.475	1.40	77.85	102.54	8505.99	0.07	0.37	1.97	12075.68	1.36	1.99
12/1	0.30	0.081	0.33	0.43	0.37	0.47	0.98	0.97	1.475	1.40	76.97	99.35	8616.71	0.09	0.35	1.94	12550.89	1.16	1.86
12/2	0.30	0.085	0.33	0.44	0.35	0.46	0.98	0.96	1.475	1.40	78.45	103.85	9242.33	0.12	0.32	1.96	12889.05	0.98	1.90

(注) 公定歩合とプライムレートは月末値。